

みどり：
あお：
あか：

軽米町 上新町自治会
自主防災組織育成支援事例報告

軽米町・岩手大学地域防災研究センター

■ 軽米町の目標・スケジュール

○ 課題と目標（軽米町計画書より）

- ・ 他の活動例を参考にし、それを基に自主防災組織としての活動内容の向上を図りたい。
- ・ 災害時、高齢者や体が不自由で動けない方を出来るだけ把握し行動したいが、個人情報のため、把握することが難しい。その場合どのような対策を講じたらよいのか。
- ・ 消防団、町役場の役割の範囲が分からないため、自主防災組織としてどこまで活動すればよいか分からない。

○ スケジュール

2020年

10/8 : ①町総務企画課打合せ

10/26 : ②上新町会長打合せ

11/9 : ③活動自己評価

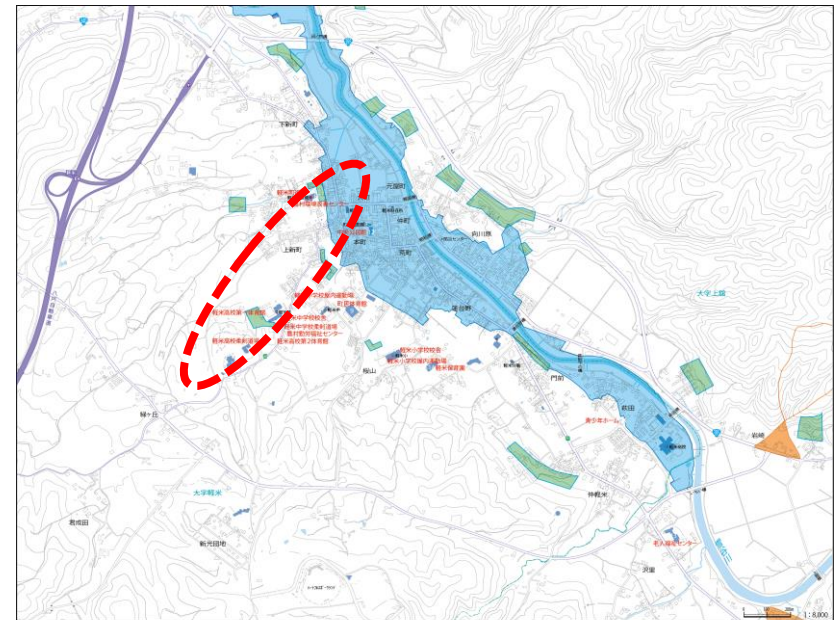
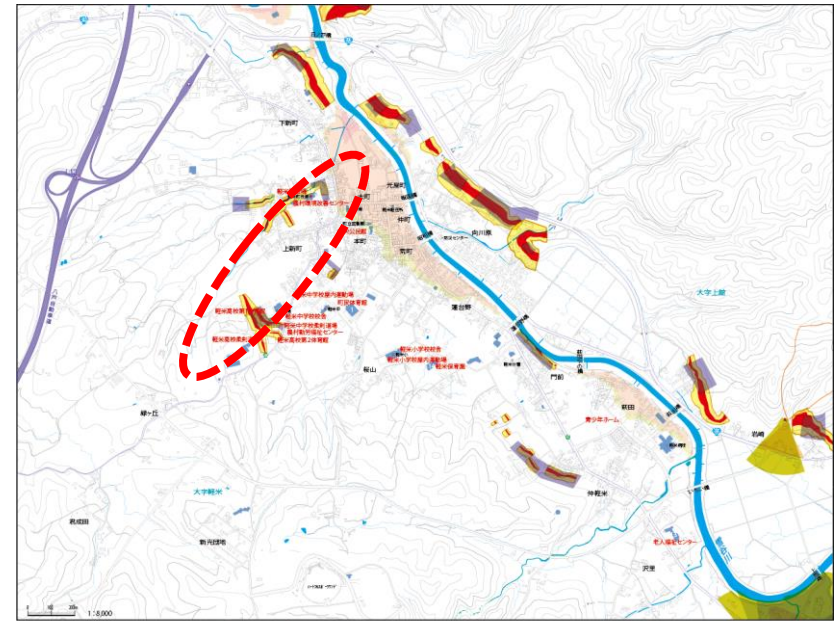
1/21 : ④DIGによる防災課題の把握

2021年

2/22 : ⑤振り返りと今後の取り組みについて

①課題・目標・対象地区の情報共有-役場

- ・ 近年、該当地区では自主防災組織が活動する災害の発生がない。
- ・ 活動経験がないため、「何をどう取組んだらいいか分からない」といった状況に陥っている。
- ・ 該当地区では地震と風水害による被害が想定されること。
- ・ 過去、平成11年には地区の北側低地部が浸水する雪谷川豪雨災害が発生している。
- ・ 自主防災組織役員意識が高く各々で活動することが多い。
- ・ 自主防災組織として活動というよりは、町内会として地区の行事や町の行事に取り組んでいる。
- ・ 大雪時の対応として「除雪機」を補助金で購入し、活用している。



②課題・目標・対象地区の情報共有-会長

【活動状況について】

- ・ 要介護者の課題は承知しているが、自治会では個人情報保護への抵触も懸念して民生児童委員の対応に委ねている。

【支援事業への要望】

- ・ 具体活動よりも組織作りの参考になる支援を望む。
- ・ 何をしたら良いか分からないが、従来の自治会活動等は積極的に行えているので、自主防災活動に対する**気づき**を得られるような情報や材料を示してほしい。

【地域の概況】

- ・ 地区は13班に分かれており1班あたり約10世帯が所属。班長は広報や配布物の配布等を担当。
- ・ 上新町は、世帯同士の顔が見えるつき合いが続く地域。



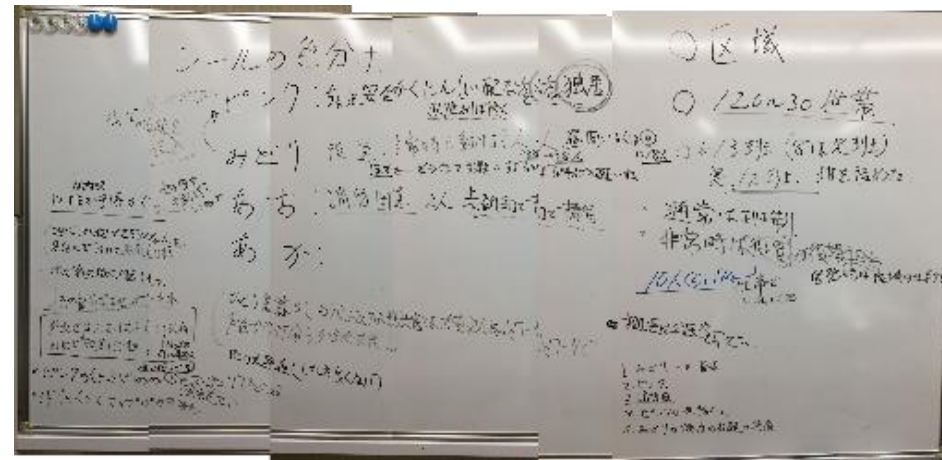
③自主防災活動の自己評価

- 自己評価の結果（詳細は右表のとおり），上新町では全体的に低調な評価であったものの，「活動拠点の整備」や「防災関連情報の周知方法」，「炊出し・救援物資の配布等」など，自治会活動に類似の活動項目は比較的，評価が高くなった。
- 地区独自に必要なと考えられる事項に「災害時要配慮者等の分布」，「安否確認（支援）方法」，「具体的な支援者（候補）の設定」など，要配慮者に関わる項目が挙げられていた。
- 災害時要配慮者等への安否確認や避難行動支援が課題として認識されたため，次回は，地域防災マップの作成を通じて，これらを把握することとなった。

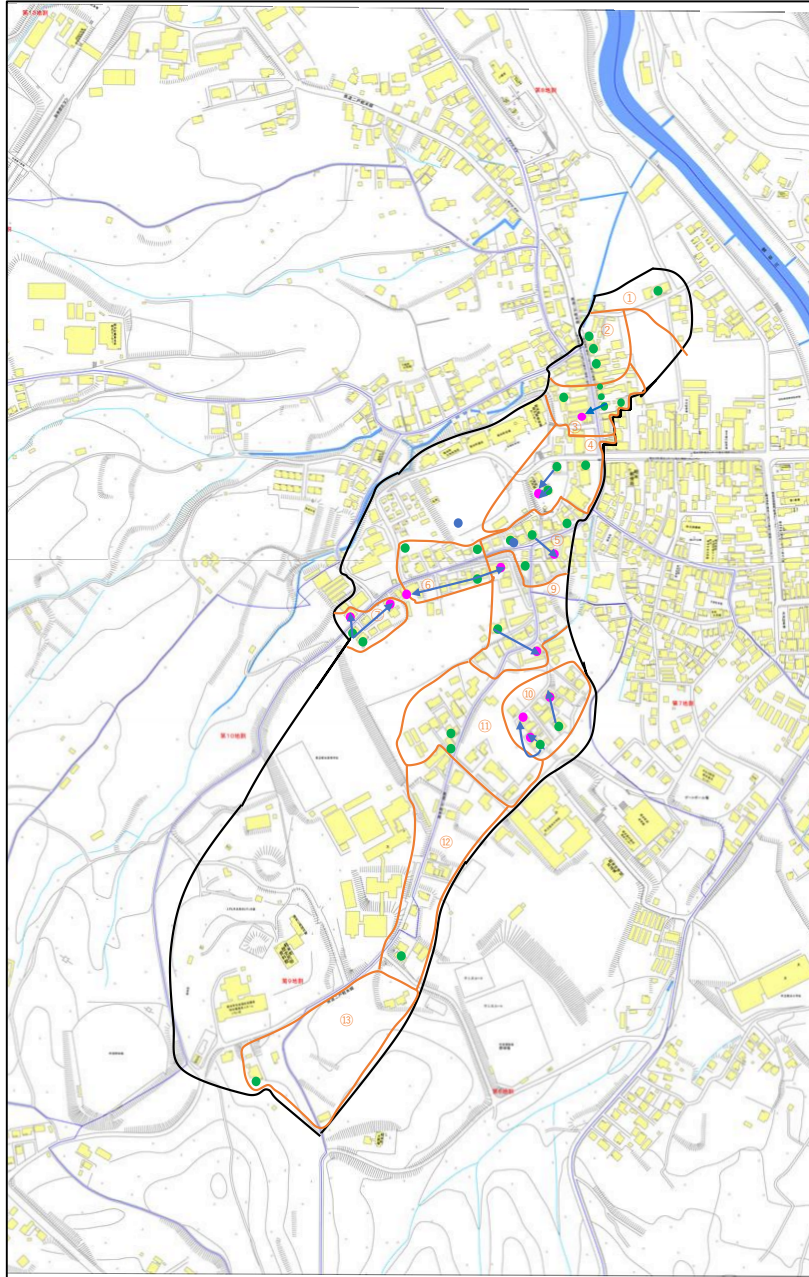
平常時の取組み	
1(1)自主防災組織の設立・体制の整備	【4. 不十分】 ・ 組織を設立はしたが、中身が無い状態。 ・ 役割分担がまだ出来ていないし、どのような役割があるかも不明。できるところから実施していきたい。
1(2)活動拠点の整備・充実化	【3. 少しできている】 ・ 拠点を上新町公民館としているため、少しできている状況
1(3)防災用資機材・備蓄の整備・点検	【3. 少しできている】 ・ 豪雪時用除雪機、炊き出し用品、発電機を備えている。
1(4)避難場所・避難所避難経路等の整備	【3. 少しできている】 ・ 避難経路はないが、道路の整備はできているので、経路を確認するだけだと思う。
1(5)防災講演会などの開催による防災知識の普及	【3. 少しできている】 ・ 消防署員による研修会を実施しているので、全部ではないが出来ている。
1(6)防災・避難訓練など各種訓練の実施	【4. 不十分】 ・ 全然やっていない。
1(7)避難所開設・運営訓練の実施	【4. 不十分】 ・ 1(6)に同じ
1(8)活動・避難所運営等各種マニュアルの作成	【4. 不十分】 ・ 特に意見無し
1(9)防災関連情報の周知方法の整備	【2. ほぼできている】 ・ 連絡網、広報、回覧板など、町会で既存の仕組みが構築されている。
1(10)地域の点検や地域防災マップの作成	【4. 不十分】 ・ マップはできているが、倒木や崖崩れなどのリスクは把握していない。ただし、「落石注意」の看板はある。
1(11)避難行動要支援者の情報把握・共有	【3. 少しできている】 ・ 班長で概ね把握しているかと思うが、町会としての共有には至っていない。
災害発生時の取組み	
2(1)避難の実施・避難所開設・運営への参画	【4. 不十分】 ・ 特に意見なし
2(2)出火防止及び初期消火	【4. 不十分】 ・ 消防の邪魔にならないようにしているため、バケツ消し程度。
2(3)救出・救護活動の実施	【4. 不十分】 ・ 実績がないから、その場になって適宜対応。（誰かはできると思うので）
2(4)地域住民の安否確認	【3. 少しできている】 ・ 各班で連絡網を使えばできると思うが、経験がない。
2(5)情報の収集・伝達及び関係機関との連絡	【3. 少しできている】 ・ 従来の流れを使えばできると思うが、経験がない。
2(6)炊出し・救援物資の配布及びその協力	【3. 少しできている】 ・ やったことがないが、運動会で同じような経験があるので、出来ると思う。
上新町地区に独自に必要な検討事項	
【大まかな事項の洗い出し】 ・ 地震、水害 ・ 公民館での避難所の備蓄品準備 ・ 要支援者への対応 【検討すべき具体的な事項】 ・ 要支援者が避難所「農村環境改善センター」まで支援するための支援方法を考える必要がある。また、避難所でももらう場所も検討する必要がある。 【今後、検討すべき課題】 ・ どこから、どのように移動すればよいか。 ・ 安否確認、避難行動支援が、班長だけで間に合うのか。（間に合わない場合、誰が手伝うのか） 【取組事項】 ・ 防災マップ（地域版）の作成	

④地域防災マップの作成

- ・ 一般的なDIGの手法を用いて地域防災マップを作成し，地区の防災資源や災害リスク等の把握を行った。
- ・ 特に，懸念事項として挙げられた災害時における要配慮者の安否確認については，候補となる独居世帯や高齢者世帯と安否確認を行う役員等の位置をそれぞれ整理した。
- ・ また，安否確認をする世帯とされる世帯の位置を矢印で結んで，その位置関係を示すなど，工夫が凝らされていた。



④地域防災マップの作成



軽米町自主防災活動地図 作業・協議メモ

○シールの色分け, 凡例

- ピンク：安否確認しないと心配な方（特に独居世帯）
- みどり：役員 昼間地域に残っている人○には赤：18人
→非常時に動けるかは疑問が残る
- ブルー：消防団員 2人（消防団は上下新町で構成）
- ：自治会の境界線
- ：班の境界線
- で安否確認の関係を記入

○協議事項

安否確認体制について

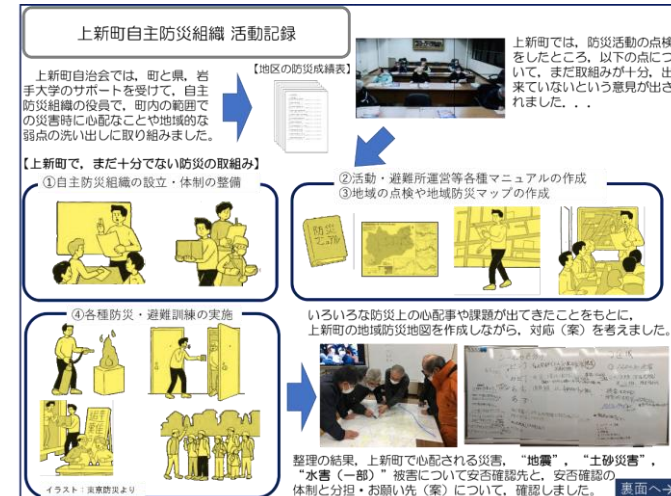
- ・安否確認は基本的に、班単位で行う。
- ・安否確認は、さしあたり役員で対応する。
- ・班内で安否確認の協力を得られそうな人もピックアップ、リスト化、共有してはどうか。
- ・班の中で、●の人と●の人をマッチングしておく。
- ・マップの中身を●の人達で共有しておく。
- ・班によって人手の問題から安否確認体制が手薄な所もあり、他の班からの支援が必要な場合も検討する。
- ・元気な一人暮らし高齢者には、ご近所で声をかけ合うので、自主防災組織では特に対応しない

その他の確認事項

- ・通常は班制で自治会機能を運営しているが、災害時は役員が運営する体制も検討しないとイケない
- ・災害時の拠点は軽米公民館となる。
- ・軽米公民館の拠点（避難所）運営は役場担当者も割当てられているが、緊急時は役場業務で参集できない場合も考えておく必要がある。

⑤地域防災マップの振返りと 今後の活動方針の協議

- 作成された地域防災マップの振返りを通じて、今後の活動方針・取組みについて検討してもらった。
- 検討に先立ち、これまでの事業で取り組んだ内容を記載した**振返りシート**を作成し、振返り資料として示した。
- 検討の結果、上新町では独居世帯や高齢者世帯など、自力での避難行動が難しいと思われる世帯の**安否確認体制の組み立て**に取り組むこととなった。
- 具体的には、**要配慮者本人と安否確認・支援候補者である町会役員への説明と協力依頼**を行うこととなった。また、これらの取組みに先立ち、上新町では「**自主防災活動の開始**」を町内へ周知・共有していくことが必要との意見があり、町会広報紙等を通じて活動の周知を行うこととなった。



⑤地域防災マップの振り返りと 今後の活動方針の協議

上新町自主防災組織 活動記録

上新町自治会では、町と県、岩手大学のサポートを受けて、自主防災組織の役員で、町内の範囲での災害時に心配なことや地域的な弱点的洗い出しに取り組みました。

【地区の防災成績表】

上新町では、防災活動の点検をしたところ、以下の点について、まだ取組みが十分、出ていないという意見が出されました...

【上新町で、まだ十分でない防災の取組み】

- ①自主防災組織の設立・体制の整備
- ②活動・避難所運営等各種マニュアルの作成
- ③地域の点検や地域防災マップの作成
- ④各種防災・避難訓練の実施

いろいろな防災上の心配事や課題が出てきたことをもとに、上新町の地域防災地図を作成しながら、対応（案）を考えました。

整理の結果、上新町で心配される災害，“地震”，“土砂災害”，“水害（一部）”被害について安否確認先と、安否確認の体制と分担・お願い先（案）について、確認しました。

裏面へ→

・ 上新町では、今後「自主防災活動の開始」を町内に周知していく予定であり、これまでの取組み資料や、左記の活動記録資料等を利用して、周知・広報資料の作成を進めていくことになっている。



・ これら、今回の活動で用いた資料、フォーマット一式を、自治体担当者に提供しており、事業期間後も自主防災組織と担当者が協力しながら、これら資料や事業の進め方を参考に、取組みが推進されることを期待したい。

上新町自主防災活動地図（案）

軽米町自主防災活動地図 作業・協議メモ

○シールの色分け、凡例

- ピンク：安否確認しないと心配な方（特に独居世帯）
- みどり：役員 昼間地域に残っている人○には赤：18人 →非常時に動けるかは疑問が残る
- ブルー：消防団員 2人（消防団は上下新町で構成）
- ：自治会の境界線
- ：班の境界線
- で安否確認の関係を記入

○協議事項

安否確認体制について

- 安否確認は基本的に、班単位で行う。
- 安否確認は、さしあたり役員で対応する。
- 班内で安否確認の協力を得られそうな人もピックアップ、リスト化、共有してはどうか。
- 班の中で、●の人、●●の人をマッチングしておく。
- マップの中身を●の人達で共有しておく。
- 班によって人手の問題から安否確認体制が手薄な所もあり、他の班からの支援が必要な場合も検討する。
- 元気な一人暮らし高齢者には、ご近所で声をかけ合うので、自主防災組織では特に対応しない。

その他の確認事項

- 通常は班制で自治会機能を運営しているが、災害時は自主防災組織の役員による自治会運営体制も検討しないといけない。
- 災害時の拠点は軽米公民館となる。
- 軽米公民館の拠点（避難所）運営は役員担当者も割当てられているが、緊急時は役場業務で参集できない場合も考えておく必要がある。

■ 上新町自主防災組織 成果と課題（今後の目標）

【成 果】

- ・ 自主防災活動項目の自己採点により，活動内容への理解と地域の自主防災活動力，課題について具体化・認識する機会を得られた。
- ・ 地域防災マップの作成により，災害時要配慮者と支援者の分布の把握，支援関係（案）が整理された。
- ・ 「自主防災活動はじめました」というアピールを地区住民に向けて発信していく方針が確認された。

【課 題（今後の目標）】

- ・ 自主防災役員から，班長，地区住民へと自主防災活動の周知
- ・ 災害時要配慮者と支援（安否確認）者の関係づくり
- ・ 地区内の浸水・土砂災害想定区域での避難行動，安全確保に関する検討はこれから。